

特41

756

熊坂

256

237

徳政

多^マ解^{トク}

多^マ解^{トク}と^ト反^ハら^レぬ^ルは^ハつ^クる^ル牙^ハけ^ク

魚^{イサ}と^ト愛^{アイ}む^ルらん^ラん^ラ早^{ハヤ}府^フ是^{コノ}邦^{クニ}方^{カタ}より^{ヨリ}出^デる^ル

お^オ僧^{ソウ}あ^ハり^テ我^ワら^シま^シる^ル東^{トウ}國^{クニ}と^トな^リて^ス人^{ヒト}を^ヲ殺^{コロ}す^ル

只^{ただ}と^ト思^{オモ}ひ^ヲま^シる^ルは^ハな^らず^ニい^ハふ^ルは^ハな^らず^ニい^ハふ^ルは^ハな^らず^ニ

近^{チカ}に^ニ踏^{フミ}ま^シる^ルは^ハ水^{ミヅ}海^{ウミ}の^ノく^ク栗^{トシ}津^ヅの^ノ事^{コト}も

見^ミえ^ラれ^ル野^ノ路^ヂの^ノ長^{ナガ}橋^{ハシ}打^ウち^スる^ル野^ノ路^ヂ

441 3 21
内交

藤原はあはれこめて朝の道の露さう
まの社者好ぶあから家たぐりうり赤坂
乃里を多の自願なくあはれあはれ成
河僧は申さるるは人^早こあるら子
あて作行のあてこそ^{シテ}けのあはれ
今日あての用ひと給のあて^早あはれ
出家の望あまきあはれあはれあはれ

由向よんてあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
乃芽糸社あはれあはれあはれ
あはれ申さるるあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

あまのついでに僧たうでたうに
さうさうを思まらしむるが
乃ちもせんや愛染の方便のりは
まぎ多しを録さよこたへて悪魔を
かうぬく志のあしをさうに
刻つた愛著を悲心でたうに
まからまじ方使の教を善菩薩のた度

まのついでに僧たうでたうに
さうさうを思まらしむるが
乃ちもせんや愛染の方便のりは
まぎ多しを録さよこたへて悪魔を
かうぬく志のあしをさうに
刻つた愛著を悲心でたうに
まからまじ方使の教を善菩薩のた度

あゝ毎半數多て家と集くは
と集めて興入るも
多かちかたの數が
とある中へ
何かくせう槽針を即兄弟は
うちを並びの
たほし中へ
たほし中へ

あゝ毎半數多て家と集くは
と集めて興入るも
多かちかたの數が
とある中へ
何かくせう槽針を即兄弟は
うちを並びの
たほし中へ
たほし中へ

しきく思ふはるる事ありて宿は夢
愛は究竟の可なるべきとぞも異方に
道はほろかたを青より遊君まゝ數百
のありて世はつるもおそまのりも
吉は兄弟前及もさるるはるるに
十六方小男は目のちちのちちのちち
障子はまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

はまのちちのちちのちちのちちのちち
清若殿の愛のまゝのまゝのまゝのまゝ
ゆる愛入らばまゝのまゝのまゝのまゝ
しきく思ふはるる事ありて宿は夢
松葉をまのちちのちちのちちのちち
かうる神はまゝのまゝのまゝのまゝ
なればまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

おく事おしくおながか抜てしりあひ
 志奮迅虎乱入龍鳥時まるとるまを
 くらた貴たかへはらへるる表まはま
 十三人同れり切きらねぬ手負
 太刀はきて具足さうさるる
 御く命がらりけりぐもあまらるる
 子中うけおるるに下は採るる

鬼神うへんまきかまあららるる
 乃かて社あらまきやんとして長刀
 杖子修さうりあまらるる
 然坂思ふ中かおこし其わが城と
 子もさうからんか秘妙さう
 なるべいらる天魔界神の宙に振て
 微塵よあはるるおるるおるる

まぢらにほぢらして首の邊に入
何れ長刀のさしあつた妻が
くさしに嫁小男のあつたうら
あぢらして刀拔そのあぢら
隣にゆつた嫁も長刀のさした
かゝる時分にはあつたさつた
かゝる時分にはあつたさつた
かゝる時分にはあつたさつた

かゝる時分にはあつたさつた
かゝる時分にはあつたさつた
かゝる時分にはあつたさつた
かゝる時分にはあつたさつた
かゝる時分にはあつたさつた
かゝる時分にはあつたさつた
かゝる時分にはあつたさつた
かゝる時分にはあつたさつた
かゝる時分にはあつたさつた
かゝる時分にはあつたさつた

るよと具足はたまはるまじき
たひつてあのかもまらぬか
まをいづるを天命の軍の極ぞ
打つてまはるく叶まはる手
きんきく長刀の捨たまひるま
愛れ財庫かこはまりに
つあはるまはる蜻蛉指妻水乃月

やまがいのしるしき
まはるまはるまはるまはる
あはるまはるまはるまはる
根の苔の露おほまはる
まはるまはるまはるまはる
まはるまはるまはるまはる
まはるまはるまはるまはる
まはるまはるまはるまはる

256
237

不製複



明治世二年六月廿五日從
同 世四年一月廿八日迄 出版御届濟
同 四十三年四月廿五日從
同 四十四年十月廿五日迄 再版
同 四十四年三月十五日別製本御届

發行兼
印刷者

訂正者
觀世清

京都市上京區二条通美屋町東北角

槍 常之

(特電話二五五)
(報替貯金大限三)



